

## 令和7・8年度

### 一般競争(指名競争)参加資格審査申請書(測量・建設コンサルタント等)の作成要領

国立研究開発法人水産研究・教育機構

測量・建設コンサルタント等の業者で国立研究開発法人水産研究・教育機構において行う競争契約に参加する資格を得ようとする方は、この要領によって資格審査申請書等を提出して下さい。

この申請による有資格者の資格の有効期間は、令和7年4月1日から令和9年3月31日までの2年間(随時申請された方の資格の有効期限は、資格を付与されたときから令和9年3月31日まで)となります。

**※なお、農林水産省大臣官房予算課の令和7・8年度測量・建設コンサルタント等契約における競争参加資格を有する者については、これに基づく資格審査を改めて受ける必要はありません。ただし、国立研究開発法人水産研究・教育機構のみの競争契約参加資格では、農林水産省大臣官房予算課の有資格者にはなれませんので、ご注意ください。**

#### ※重要なお知らせ

令和7年度定期申請(令和7年2月3日受付開始)から「納税証明書その2」の添付が必須となります。詳細は「3(5)カ 納税証明書その2」をご確認ください。

#### 1 申請の時期及び申請場所

測量・建設コンサルタント等に係る競争契約において、資格の付与を希望する者は、2の申請に必要な書類を提出して下さい。

随時申請の受け付けを行っていますが、資格を付与したときから有効となるため、希望する調達案件の入札に間に合わないことがあるので、余裕を持って申請して下さい。

##### (1) 申請場所

国立研究開発法人水産研究・教育機構 総務部調達課契約第2担当

〒221-8529 神奈川県横浜市神奈川区新浦島町1-1-25

GRC横浜ベイリサーチパーク 6階

TEL045-277-0210(内線2674)

##### (2) 受付期間

① 郵送受付：随時

② 持参受付：土曜日、日曜日及び祝日を除く10時～17時(但し、12時～13時を除く。)

#### 2 申請に必要な書類(提出部数各1部)

(1) 一般競争(指名競争)参加資格審査申請書(測量・建設コンサルタント等)

(2) 営業所一覧表

(3) 財務諸表類(法人の場合)又は営業用純資本額に関する書類及び収支計算書(個人の場合)

(4) 登記事項証明書又は登記簿謄本(以下「登記事項証明書等」という。)(法人の場合)若しくはその写し

- (5) 登録証明書等（登録を受けている場合）の写し
- (6) 納税証明書（国税通則法施行規則（昭和 37 年大蔵省令第 28 号）別紙第 9 号書式その 3 又はその 3 の 2 若しくはその 3 の 3。以下同じ。）の写し
- (7) 納税証明書（国税通則法施行規則（昭和 37 年大蔵省令第 28 号）別紙第 9 号書式その 2 の写し

[注] ① 測量法（昭和 24 年法律第 188 号）第 55 条の 8 に規定する書類を国土交通大臣に提出し、その写しを申請時に提出する者であつては、（2）から（5）までに掲げる書類を省略することができます。

また、建設コンサルタント登録規程（昭和 52 年 4 月 15 日建設省告示第 717 号）第 7 条、地質調査業者登録規程（昭和 52 年 4 月 15 日建設省告示第 718 号）第 7 条又は補償コンサルタント登録規程（昭和 59 年 9 月 21 日建設省告示第 1341 号）第 7 条に規定する現況報告書を国土交通大臣に提出し、その確認印を受けた現況報告書（一式）の写しを提出しようとするときであつて、申請しようとする業種の区分が各登録規程に定める登録部門の範囲内である場合に限り、（2）から（5）までに掲げる書類の添付を省略することができます。

- ② （3）から（5）に掲げる書類のうち添付することが著しく困難であると認められる書類がある場合には、当該書類の記載の事実を確認しうる他の書類をもって代えることができます。
- ③ （4）、（5）及び（6）について写しを提出する場合は、複写機等により複写し、できるだけ A 4 版の用紙を用い、かつ鮮明なものを提出してください。
- ④ 上記書類は、番号順に整理の上（ただし、ファイル等で綴じないこと。）、1 の申請場所へ提出してください。
- ⑤ 郵送の場合は郵便書留又は配達記録郵便にて送付してください。
- ⑥ 添付書類のうち公的機関より発行された書類は申請日から 3 ヶ月前までのものを有効とします。
- ⑦ 長 3 封筒（宛先に「資格審査結果通知書」の送付先住所・社名・代表者名を記載し、110 円切手を貼付したもの。）も必ず提出してください。

### 3 申請に必要な書類の作成要領

- (1) 提出書類に使用する言語は、日本語を用い、ボールペン又は万年筆等（鉛筆や赤色は不可）を用いて楷書で明瞭に記載してください。なお、ゴム印を利用できる箇所は使用して差し支えありません。
- (2) 記載事項の基準日は、申請日の属する年の 1 月 1 日とします。ただし、随時受付の基準日は申請の直前の日とします。なお、決算に関する事項については、基準日の直前に決算の確定した日とします。（仮決算は認めておりません。）
- (3) 一般競争（指名競争）参加資格審査申請書（測量・建設コンサルタント等）は、本社（店）で作成してください。従って、申請者は本社（店）の代表者となります。
- (4) 一般競争（指名競争）参加資格審査申請書（測量・建設コンサルタント等）の作成方法は、次のとおりです。
  - ア 様式上、「※」に該当する項目については、記載しないこと。
  - イ 「01 新規・更新の別」欄には、該当する申請区分の番号（1 又は 2）に○印を付す。  
なお、「新規」とは、当機構に対して過去に何度か申請したことがあつても、前回（令

和5・6年度競争参加資格審査)の申請を行っていない場合をいう。

ウ 「05 適格組合証明」欄には、官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律（昭和41年法律第97号）第2条第1項第4号に該当する組合について、経済産業局長又は沖縄総合事務局長が発行する官公需適格組合証明書の取得年月日及び番号を記載する。

エ 「07 法人番号」欄には、行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）第58条第1項又は第2項の規定により法人番号の指定を受けた者については、国税庁長官から通知された法人番号（13桁）を記載する。

※法人番号は、有資格者情報として、有資格者名簿に記載するので、誤りのないよう正確に記載する。

※個人の場合など、法人番号の通知を受けていない場合には記載の必要はありません。

※法人番号が不明の場合、国税庁法人番号公表サイトで検索すること。

<https://www.houjin-bangou.nta.go.jp/>

オ 「08 本社（店）住所」から「14 本社（店）FAX番号」までの各欄は、次により左詰めで記載する。

（ア）フリガナの欄は、カタカナで記載すること。

なお、「08 本社（店）住所」欄の都道府県名及び「09 商号又は名称」欄の株式会社等法人の種類を表す文字については、フリガナは記載しないこと。

（イ）「08 本社（店）住所」欄での丁目、番地は、「－（ハイフン）」により省略して記載すること。

[例] ヨコハマシカナガワクシンウラシマチョウ

神奈川県横浜市神奈川区新浦島町1-1-25

（ウ）「09 商号又は名称」欄での株式会社等法人の種類を表す文字については、下表の略号を用いること。

種類	株式 会社	有限 会社	合資 会社	合名 会社	協同 組合	協業 組合	企業 組合	合同 会社	有限責任 事業組合	經常建設 共同企業体
略号	(株)	(有)	(資)	(名)	(同)	(業)	(企)	(合)	(責)	(共)
種類	一般財団 法人	一般社団 法人	公益財団 法人	公益社団 法人	特例財団 法人	特例社団 法人				
略号	(一財)	(一社)	(公財)	(公社)	(特財)	(特社)				

[例] スイサンケンセツジムシヨ

(株)水産建設事務所

- (エ) 「10 代表者氏名」欄、「11 担当者氏名」欄での氏名（フリガナを含む。）については、姓と名前との間は1文字あけること。  
なお、代表者の役職については、フリガナは記載しないこと。

[例] スイサン タロウ

水産 太郎

- (オ) 「12 本社（店）電話番号」欄、「13 担当者電話番号」（必要があれば内線番号）欄及び「14 本社（店）FAX番号」欄はでの市外局番、市内局番及び番号については、それぞれ「-（ハイフン）」で区切り、（ ）は用いないこと。

[例] 045-277-0133

- (カ) 「17 申請代理人」欄は、行政書士等が代理申請する場合に使用する。  
なお、申請者の従業員が代表者に代わって申請書を提出する場合は本欄への記載は不要である。

カ 「18 登録等を受けている事業」欄については、次の区分に従い、それぞれ該当する場合に記載する。

(ア) 測量業者・・・測量法（昭和24年法律第188号）第55条による登録を受けている場合

(イ) 建築士事務所・・・建築士法（昭和25年法律第202号）第23条による登録を受けている場合

(ウ) 建設コンサルタント・・・建設コンサルタント登録規程（昭和52年建設省告示第717号）第2条による登録を受けている場合

(エ) 地質調査業者・・・地質調査業者登録規程（昭和52年建設省告示第718号）第2条による登録を受けている場合

(オ) 補償コンサルタント・・・補償コンサルタント登録規程（昭和59年建設省告示第1341号）第2条による登録を受けている場合

(カ) 不動産鑑定業者・・・不動産の鑑定評価に関する法律（昭和38年法律第152号）第22条による登録を受けている場合

(キ) 土地家屋調査士・・・土地家屋調査士法（昭和25年法律第228号）第8条による登録を受けている場合（土地家屋調査士が2人以上所属しているときは、1人のみについて記載する。）

(ク) 司法書士・・・司法書士法（昭和25年法律第197号）第8条による登録を受けている場合

(ケ) 計量証明事業者・・・計量法（平成4年法律第51号）第107条による登録を受けている場合

(コ) その他・・・その他の登録等を受けている場合は、登録事業名等が空白の欄に記載する。

キ 「19 設立年月日（和暦）」欄については、登記事項証明書記載の設立年月日（和暦）

を記載する。（個人については、記載を要しない。）

ク 「20 みなし大企業」欄については、次により記載する。

中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条第1項第1号に規定する中小企業のうち、発行済株式の総数又は出資金額の総額の2分の1以上を同一の大企業が所有している中小企業、発行済株式の総数又は出資金額の総額の3分の2以上を大企業が所有している中小企業、大企業の役員又は職員を兼ねている者が、役員総数2分の1以上を占めている中小企業のいずれかに該当する中小企業（みなし大企業）は、「下記のいずれかに該当する」にチェックを入れ、上記に該当しない場合は「該当しない」にチェックを入れる。

ケ 「21 測量等実績高」の各欄については、次により記載する。

（ア）「①競争参加資格希望業種区分」欄には、当機構が設定した業種区分に対応した競争への参加を希望する業種（以下「競争参加資格希望業種」という。）を記載する。

（イ）「②直前2年度分決算」及び「③直前1年度分決算」及び「④直前2ヶ年間の年間平均実績高」の各欄には、競争参加資格希望業種ごとに実績高を記載する（決算が1事業年度1回の場合には、「②直前2年度分決算」及び「③直前1年度分決算」の各欄は、当該左右欄のうち右欄のみに記載する。）なお、「③直前1年度分決算」とは審査基準日において確定した決算を含む過去1年間の決算を、「②直前2年度分決算」とは直前1年度分決算の前の1年間の決算を、「④直前2ヶ年間の年間平均実績高」とは両決算に基づき算定した年間平均実績高をそれぞれいう。

適格組合にあつては、適格組合の年間平均実績高（関係適格組合員に対する請負業務に係る実績高を除く。）と関係適格組合員の年間平均実績高（適格組合又は他の関係適格組合員に対する実績高を除く。）との合計額とする。

個人企業から会社組織に移行した場合、他の企業を吸収した場合等にあつては、移行前の企業体、又は吸収前の企業体等の実績（ただし、申請者が行っている事業に係るものに限る。）を含めた実績を記載する。

（ウ）「⑤申請を希望する部局」欄については、記載不要とする。

コ 「22 有資格者数」欄については、該当職員数を記載する。記載する有資格者数は自社の常勤職員のみとし、非常勤職員、友好・協力関係のある別企業の職員等は記載しないこと。

なお、記載事項が1葉で終わらない場合は、同欄の書式で延長するものとする。このときには、同様式の裏面に記載して差し支えないが、表面にその旨を注記する。

サ 「23 建設コンサルタント及び補償コンサルタント登録業者の登録部門」欄には、建設コンサルタント登録規程及び補償コンサルタント登録規程に基づいて登録を受けている部門について、下表の登録部門に対応する番号に○印を付する。

建設コンサルタント業務					
番号	登録部門	番号	登録部門	番号	登録部門
1	河川、砂防及び海岸・海洋	2	港湾及び空港	3	電力土木
4	道路	5	鉄道	6	上水道及び工業用水道
7	下水道	8	農業土木	9	森林土木

10	水産土木	11	廃棄物	12	造園
13	都市計画及び地方計画	14	地質	15	土質及び基盤
16	鋼構造物及びコンクリート	17	トンネル	18	施工計画、施工設備及び積算
19	建設環境	20	機械	21	電気電子

補償コンサルタント業務					
番号	登録部門	番号	登録部門	番号	登録部門
22	土地調査	23	土地評価	24	物件
25	機械工作物	26	営業補償・特殊補償	27	事業損失
28	補償関連	29	総合補償		

シ 「24 自己資本額」の各欄については、次により記載する。

(ア) 「①株主資本」欄には、払込済資本金に新株式申込証拠金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式払込証拠金を加え自己株式を減じた額を記載する。

また、外資系企業の場合には、「①株主資本」欄の合計欄の上段（ ）内に外国資本の額を内数で記載する。組合にあつては組合の基本財産と組合員の払込資本金に、利益剰余金を加えた額の合計額を記載する。

(イ) 「②評価・換算差額等」欄には、その他の有価証券評価差額金、繰越ヘッジ損益、土地再評価差額金があつた場合には、その合計の額を記載する。

(ウ) 「③新株予約権」欄には、新株予約権があつた場合にはその額を記載する。

(エ) 個人にあつては、「④計」欄に、純資産合計（期首資本金＋事業主利益＋事業主借勘定－事業主貸勘定）の額を記載する。

ス 「25 損益計算書」の「税引前当期利益」欄は、直前1年度分決算によって記載する。

セ 「26 貸借対照表」の「①流動資産」、「②流動負債」、「③固定資産」及び「④総資本額」の各欄は、直前1年度分決算によって記載する。

ソ 「27 経営比率」の「①総資本純利益率」、「②流動比率」及び「③自己資本固定比率」の各欄は、それぞれ小数点以下第二位の数値を四捨五入して小数点以下第一位までの数値を記載する。

タ 「28 外資状況」については、外資系企業（日本国籍会社を含む。）の場合に、該当する会社区分の番号（1 2 3のいずれか）に○印を付するとともに、[ ]内に外国名を、（ ）内に当該国の資本の比率をそれぞれ記載する。

なお、「2 日本国籍会社（100%）」とは100パーセント外国資本の会社を、「3 日本国籍会社」とは一部外国資本の会社をそれぞれいう。

チ 「29 営業年数等」の「④営業年数」欄には、競争参加資格希望業種に係る事業の開始日（2業種以上のときは最も早い開始日）から基準日までの期間から、当該事業を中断した期間を排除した期間（1年未満切り捨て）を記載する。

ツ 「30 常勤職員の数」の「①技術職員」及び「②事務職員」の各欄には、基準日の前日において常時雇用している従業員のうち専ら測量・建設コンサルタント等業務に従事している職員の数を、「③その他の職員」欄には、それ以外の職員の数を記載する。ま

た、「④計」欄には、法人にあっては常勤役員の数を含めたものを、個人にあっては事業主を含めたものをそれぞれ記載し、「⑤役職員等」欄には、常勤役員又は事業主の数を内数で記載する。

なお、本項における「常時雇用」及び「常勤」とは、申請者に従事し、かつ客観的な判断事項（定期・定額給与の支払対象者、社会保険料の納付対象者であること等）を有することをいう。

(5) 添付書類の作成方法は次のとおりです。

ア 営業所一覧表

この様式については、様式の末尾にある記載要領に従って記載する。

なお、記載事項が1葉で終わらない場合は、同一の様式で延長するものとする。このときには、様式の裏面に記載して差し支えないが、表面にその旨を注記する。

イ 財務諸表類

申請者が自ら作成している直前1年間の事業年度分に係る貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び注記表（個人にあっては、これらに類する書類）をいう。

ウ 登記事項証明書等

商業登記法（昭和38年法律第125号）第6条第5号から第9号までに規定する株式会社登記簿等が記載されている事項を証明した書面（同法第10条に規定する書面をいう）、又は登記簿の謄本をいい、法人が提出する。（2の〔注〕の①から③までを参照）

エ 登録証明書等

登録証明書等とは、登録官署が発行する証明書をいう。（2の〔注〕の①から③までを参照）なお、競争への参加を希望しない業種に係るものは提出を要しない。

オ 納税証明書の写し

直前1年間における法人税又は所得税、消費税及び地方消費税の納入状況についての税務官署が発行する証明書をいう。写しで可。

(ア) 様式

次の様式のうち、いずれか1枚（写し）を提出することとする。

様式	証明の内容	個人	法人
国税通則法施行規則別紙第9号書式その3の2	「申告所得税と消費税及び地方消費税」について未納の税額のないことの証明書	◎	
国税通則法施行規則別紙第9号書式その3の3	「法人税と消費税及び地方消費税」について未納の税額のないことの証明書		◎
国税通則法施行規則別紙第9号書式その3	未納税額（申告所得税（個人の場合）、法人税（法人の場合）、消費税及び地方消費税）のないことの証明書	○	○

(イ) 納税証明書の対象

個人の場合・・・申告所得税、消費税及び地方消費税

法人の場合・・・法人税、消費税及び地方消費税

※ できるかぎり「◎」の付いた証明書を提出すること。

※ 「○」の様式を使用する場合に証明の対象となる税の種類が異なる（不足する）場合には、受け付けることができない。

#### カ 納税証明書その2

納税証明書その2（法人）について、納税実績のある最新の決算期を指定して取得してください。納税証明書その2（法人）が取得できない法人においては、「法人税の申告に関する申出書」を提出できる場合に、納税証明書その2（法人）の代わりとすることができます。また、納税証明書その2（個人）についても、納税実績のあった最新の年分を指定して、同様に取得してください。納税証明書その2（個人）が取得できない個人においては、「所得税及び復興特別所得税の申告に関する申出書」を提出できる場合に、納税証明書その2（個人）の代わりとすることができます。

#### キ 委任状

代理人による申請をする場合には、申請者の代表者から競争参加資格審査の代理申請をする権限について委任する旨を明記した委任状を作成して提出してください（正本を提出すること。）。

- (6) 測量法第55条の8に規定する書類を国土交通省に提出し、その写しを提出する場合には、営業所一覧表、財務諸表類、登記事項証明書等の書類の添付を省略することができます（2の〔注〕の①及び②を参照）。

また、建設コンサルタント登録規程第7条、地質調査業者登録規程第7条又は補償コンサルタント登録規程第7条による現況報告書を国土交通大臣に提出し、その確認印を受けた現況報告書の副本の写しを提出した者であって、競争参加資格希望業種が各登録規程に定める登録部門の範囲内である場合には、営業所一覧表、財務諸表類、登記事項証明書等の書類の添付を省略することができます（2の〔注〕の①及び②を参照）。

- (7) 外国事業者が申請する場合の提出書類等の作成方法

ア 申請書の「08 本社（店）住所」欄については、本社（店）の所在する国名及び所在地名を記載する。なお、日本国内に連絡場所がある場合には、その所在地を欄外に記載する。

イ 登記事項証明書等又は身元証明書及び納税証明書については、証明書等に代えて、当該国の管轄官庁又は権限のある機関の発行する書面とする。

ウ 提出する書類等について、外国語で記載された事項については、日本語の訳文を添付する。

エ 申請書類の金額表示は、邦貨に換算する必要がある場合には、基準日における出納官吏事務規程（昭和22年大蔵省令第95号）第16条に規定する外国貨幣換算率により換算して得た額を記載する。

- (8) この申請によって登録された場合に参加できる競争契約の範囲は、建設工事に関する設計、監理、調査等及び測量に係る契約のうち登録業種に限られます。

## 4 申請した事項の変更の届出

申請書提出後において、次の（1）から（5）までに掲げる事項について変更があった場合には、速やかに競争契約参加資格審査申請書変更届（建設工事、測量等、物品の製造等）に必要事項を記載の上、次の添付資料を添えて申請場所へ届け出てください。

(1) 本社（店）住所

(2) 商号又は名称、電話番号及びFAX番号

- (3) 法人である場合は代表者の役職及び氏名、個人である場合はその者の氏名
- (4) 許可・登録等の状況
- (5) 営業所の名称、所在地、電話番号及びFAX番号（営業所の新設及び廃止を含む。）

**【添付資料】**

資格審査結果通知書の写し、及び次に記載するものを添付してください。

○法人の住所、商号又は名称及び代表者の氏名に係る変更の場合

登記簿事項証明書又は登記簿謄本（又は抄本）若しくはその写し

○個人の住所及び氏名に係る変更の場合

住所については住民票の写し、氏名については戸籍謄本（又は抄本）の写し

○許可・登録の状況に係る変更の場合（資格の取得・喪失、廃業の場合）

許可・登録の証明書の写し

○営業所の所在地に掛かる変更の場合（営業所の新設又は廃止を含む）

営業所の所在地が分かる書類若しくはその写し

別記 業種別区分表

測量・建設コンサルタント等契約

業種の区分	内 容
1 測量	測量法第3条に規定する測量業務
2 土地家屋調査	土地家屋調査士法第3条に規定する土地家屋調査業務
3 建設コンサルタント	公共工事の前払金保証事業に関する法律第19条第3号に規定する建設コンサルタント業務
4 建築士事務所	建築士法第23条による登録を受けて行う建築士事務所業務
5 計量証明	計量法第2条に規定する計量証明業務
6 地質調査	地質調査業者登録規程第2条に規定する地質調査業務
7 補償コンサルタント	補償コンサルタント登録規程第2条に規定する補償コンサルタント業務
8 その他	その他の業務